

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 27 日

事業所名 World of Wing

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		感染予防のために、活動のグループを二つに分けるなどして、密にならないように一人当たりのスペースが広く取れるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	全てがバリアフリーになっていないが、トイレなど手すりがついている箇所はある。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	公的な方に第三者委員になってもらっている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		子どもの支援においてはもちろんのこと、福祉関連の研修を中心に研修を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		こちらから、情報提供することはしていないが、移行した障害福祉サービス事業所から情報提供の依頼があった場合、準備は常にしている。		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			なかなか研修に参加することができなかったが、次年度はスタッフが研修を受けられるように考えている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		スタッフ一人ひとりの得意分野を生かして、保護者が悩んでいる内容別に得意とするスタッフが支援を行うようにしている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			保護者からの依頼があれば、ぜひ保護者会を開催したいと考えている
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		些細なことでも苦情として受け止め、スタッフ全員で共有している。苦情に関して場合によっては虐待防止センターや障害福祉課等の意見を求め事業所内のみならず行政の意見も聞くように努めている。		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		紙ベースの会報ではなくSNSやホームページ等で発信している。		
	35	個人情報に十分注意している	○		非常勤スタッフにも個人情報の取り扱いには注意するように周知し、すべて鍵のかかるロッカーへ保管している		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者が障がいがある場合、保護者に応じて細かく説明したり、相談された内容によっては、相談員さんに報告するなど、家庭に応じて対応している。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	行事に招待することはないが、散策等で地域住民の方と出会う機会を作り、子どもたちが地域の方と出会える時間を作っている。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各マニュアルを活用し、特に感染症については今後も外部講師による研修を実施する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		災害が起こったことを想定して、訓練を行っているが、子どもたちに訓練であることを伝えず、災害時、子どもたちがパニックになったときのことを想定して訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待に関しては、スタッフ全員が自分の支援について、相談しやすい環境としている。また、自分の支援方法が不安なときは、「これって？大丈夫？相談記録」というものを作り、自分の支援について不安だったことを記録に残し、自分の行った支援が正しいのか、間違っていたのかを相談しやすい環境としている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束が必要な子どもは現在いないが、やむを得ない状況により身体拘束を行わなければならないようになったときのために、身体拘束における計画書や同意書等を作成している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーがある子どもに関しては、医師の指示通り、支援中でも何のアレルギーがあるのか、だれが見ても分かるようにしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		1日1ヒヤリということをお頭に置き、事故が起こらないようにスタッフ全員で考えている。また、ヒヤリハットの報告書があることで、注意するポイントをスタッフ全員が意識することができる。	